

●浜の話題

- 11月2日、水産技術センター栽培推進部は、同センター地先海面において磯焼けに係る実験を開始しました。一辺5mの正方形の実験区域を設定し、同区域内から藻類を餌とする生物（ウニ類、巻貝等）を定期的に除去することで、藻類の繁茂を促進できるか検証します。
- 11月3日、小田原市産地協議会は一夜城ヨロイツカファームに出店し、小田原地先で漁獲され、小田原魚市場で加工された魚の干物の販売を行いました。当日は多くの来場者が干物を購入され、特にサバのみりん干しとイボダイが好評でした。



小田原産地魚干物の直売

- 11月5日、平塚市漁協は、平塚商業まつり「いいもん ひらつか 魅つけ市」に出店しました。当日は、平塚の漁業PRキャラクター「ひらつかタマ三郎」も駆け付け、同漁協のプライドフィッシュ（全国漁業協同組合連合会が認定した、地元漁師が自信をもって勧める魚）「平塚のシイラ」の串揚げや、「須賀湊の燻し魚」としてシイラとソウダカツオ、シュモクザメの燻製も直売したそうです。11月18日には、「ひらつかタマ三郎漁港まつり」を盛大に開催するそうです。
- 11月7日、横須賀市大楠漁協は（一財）横須賀西部水産振興事業団の協力のもと、アワビ種苗（横須賀市大楠漁協分が1万個、（一財）横須賀西部水産振興事業団分4千個の合計1万4千個）を同漁協の各地先に放流しました。
- 11月7日、鎌倉漁協の協力のもと、水産技術センターは同漁協地先海面における藻場の調査を実施しました。一部の海域では藻場が消失していたものの、海藻が繁茂している海面も多くみられました。今後、同漁協で藻場増殖活動を行う際の基礎的なデータとして活用する予定です。
- 11月7日、岩漁協の漁業者は10月に藻場造成のために設置したカジメのスボアバッグ（種まき用のカジメを入れた袋）を回収し、袋から回収したカジメ葉の観察を行ったところ、子嚢斑の跡が白く抜けており、種（遊走子）が放出された跡が見られました。今後藻場が減退した漁場にカジメの幼体が出芽することが期待されます。



遊走り放出後のカジメ葉

- 11月8日、小田原市漁協刺網部会の研修会が開催されました。今年度は「相模湾で漁獲される未利用魚の活用」と「漁業操業の負担軽減に関する技術提案」について水産技術センター及び同相模湾試験場の研究員から話題が提供され、相模湾で漁獲される未利用魚の売り込み方、加工方法、調理方法などの具体例や、操業時の負担軽減に役立つサポートスーツなどが紹介され、今後の漁業操業の一助となることが期待されます。



刺網部会研修会の様子

- 11月11日、横浜市漁協柴支所において毎年恒例の「柴漁港秋のさかなフェア2017」が開催されました。さかなの直売、遊漁船の体験乗船、おさかなタッチングプール、魚あてクイズ、ロープワーク教室等の様々なイベントがあり、4500人と多くの方が来場しました。
- 11月14日、神奈川県漁業士会は、平成29年度第4回役員会を横浜市西区のかながわ県民センターで開催しました。平成30年1月12日に開催される漁業者交流大会及び漁業士会総会等について活発に議論が行われました。
- 11月15日、藤沢市漁協は、チョウセンハマグリ稚貝分布調査（特別採捕許可）を実施しました。平均殻長26mmの稚貝が7.38個/m²と平成25年以前（0.2~0.3個/m²）と比べて密度が高く、藤沢で生まれ育ったチョウセンハマグリが浜に根付いていると思われます。1月にかながわブランド登録してから、「湘南はまぐり」は藤沢の新たな名産品として取引先も増え、「漁獲量も安定（1日150kg前後）し、稚貝も多く見えるのは良い兆候だ！」と、同漁協葉山組合長は話しています。



チョウセンハマグリの稚貝分布調査の様子

- 大磯二宮漁協所属の(有)湘南定置で漁獲される「大磯の金アジ」PRパンフレットとポップが完成しました。(有)湘南定置では、PRパンフやポップを同漁協の地魚を味わえる「めしや 大磯港」を初めとした出荷先の取扱店に配布・掲示し、ブランド化に向けたPRを図って行くそうです。



「大磯の金アジ」PRパンフレットとポップ

- 平塚の定置網に入ったサメを使った燻製製品が脚光を浴びています。11月25日には、TVK「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」の取材がある予定で、同日に放映予定だそうです。その他に、NHKBSからは、定置網漁からサメの燻製加工まで取材したいとの要望があるそうです。



平塚の定置網で漁獲されたシロシュモクザメ

シュモクザメを使ったサメの燻製製品